

在来線 レール造のプラットホーム上家の耐震補強について

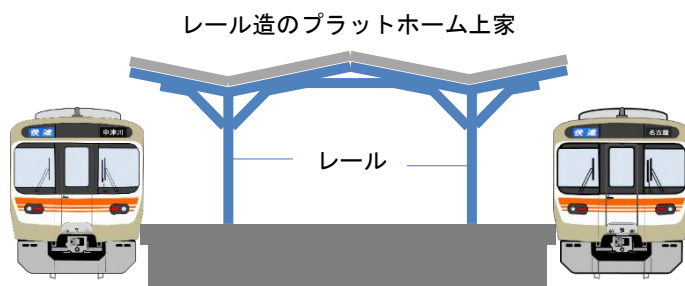
当社では、駅の地震対策として駅舎の耐震化や天井脱落防止対策を順次進めています。東日本大震災における被災事例を踏まえ、地震発生時の安全性をより一層高めるため、2021年より各駅のプラットホーム上家の耐震補強を進めてきましたが、このたび、レール造のプラットホーム上家についても、技術開発により耐震性能の確保が可能となり、耐震補強の計画がまとまりましたのでお知らせします。

1. 対象駅

お客様のご利用が1日1万人以上の駅のうち、プラットホーム上家の柱や梁にレールを使用した6駅（三島、富士、掛川、豊橋、安城、大垣）

2. 実施内容（別紙）

プラットホーム上家に使用しているレールの柱脚部を補強することなどにより、強い揺れに対する耐震性能を確保します。



対象駅の例（大垣駅）

3. 工事費

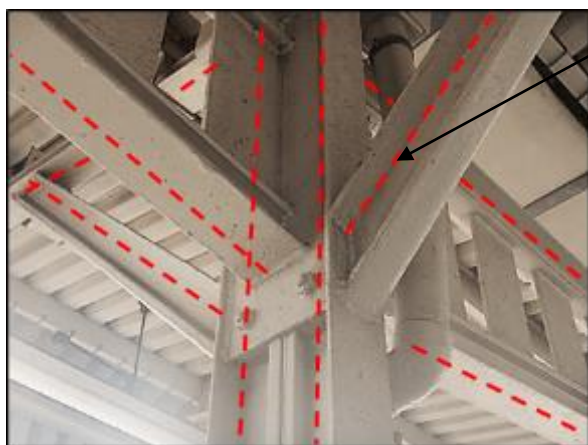
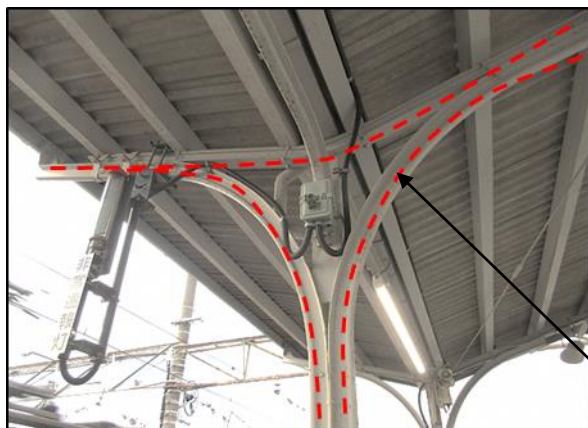
約8億円

4. 工期

2024年3月～2034年3月（予定）

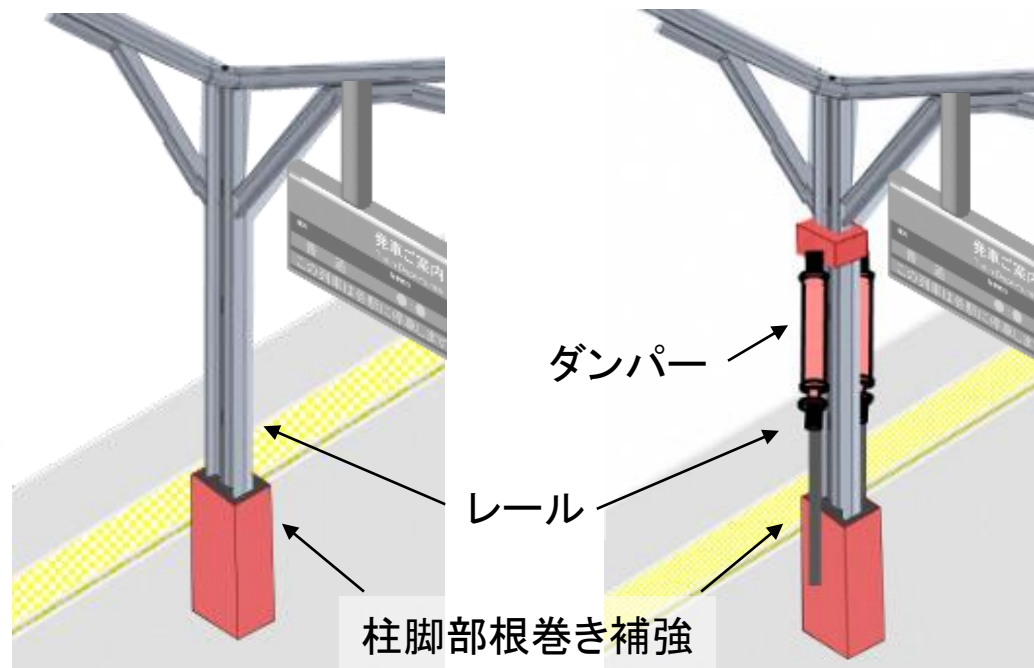
レール造のプラットホーム上家の耐震補強工法

【レール造のプラットホーム上家の例】



レール

【耐震補強の工法例】



※必要に応じて地震の揺れを吸収するダンパーを設置
 (地震時にダンパーが伸縮して柱に生じる圧縮・引張の変形を低減)

実際に上家で使用しているレールを用いた実験を行い、材料性能等を確認

⇒ 耐震性能の検証手法と合理的な補強工法を技術開発(特許出願済)

⇒ 根巻き補強等で耐震性能の確保が可能